

◇横須賀市 ヴェルニー・小栗祭式典で

11月16日(土)

吹奏楽「小栗のまなざしー小栗上野介公に捧ぐー」を演奏

倉渕中学校音楽部が海上自衛隊横須賀音楽隊と共演で

【ヴェルニー小栗祭】

◇横須賀市が毎年、市の恩人として小栗上野介とフランス人技師長ヴェルニーの業績をたたえる式典

仏国歌演奏 花輪供呈
(市長と仏大使) 吉田雄人市長の式辞 祝辞・マセ仏大使、日本外務大臣代理・ブレスト市副市長 来賓紹介

演奏 「小栗のまなざし」海上自衛隊横須賀音楽隊と倉渕中学校音楽部

レセプション



▲海上自衛隊音楽隊とともに「小栗のまなざし」を演奏する倉渕中学校音楽部 右後ろはマセ仏大使

◇横須賀市主催で横須賀造船所建設の功労者としてフランス側を代表してフランソワ・レオンス・ヴェルニー技師長、日本側を代表して小栗上野介の業績をたたえる「ヴェルニー小栗祭式典」が横須賀市芸術劇場の4階小ホール「ベイスайдポケット」で行われました。マセ仏大使や外務大臣代理、横須賀市の姉妹都市フランス・ブレスト市副市長、春の小栗まつりにも参列したデュオメ海軍武官、米海軍極東司令官、同横須賀基地司令官、海上自衛隊横須賀総監、海上保安庁、富岡市の岡野市長、群馬・神奈川の日仏協会関係者、歴史愛好家やたくさんの小栗上野介ファンが参列。



▲演奏を終え「素晴らしかったよ」と声をかけてくれたマセ大使と記念撮影

令官、海上自衛隊横須賀総監、海上保安庁、富岡市の岡野市長、群馬・神奈川の日仏協会関係者、歴史愛好家やたくさんの小栗上野介ファンが参列。

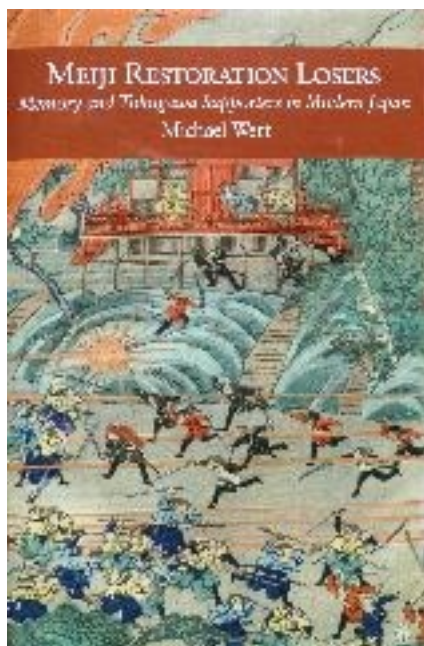
◇「音楽を通じて小栗上野介を身近に感じ、郷土に対する自信と誇りを持ってほしい」という趣旨で福田洋介氏に作曲を依頼した「小栗のまなざし」はこの春に完成し、約1ヶ月の猛練習で中学生が5月の小栗まつりで披露しましたが、本格的な大編成の演奏は今回が初めてとなります。1,2年生12名の部員は松本操校長・熊井和子教諭の引率で朝5時に小栗上野介顕彰会役員とともに出発。都内の渋滞で到着が遅れ数回のリハーサルで、本番にのぞみました。

◇演奏が始まると、練習を積んできた成果があらわれ、また暖かく迎えてくれた隊員のリードもあって、しっかりした演奏で参列者に感銘を与えました。部員たちの身についた自信と力が、全校生徒「一人が1楽器」をめざす倉渕中学校の音楽教育にこれから広がってゆくことが期待されます。

◇作曲者福田洋介氏は朝日作曲賞を2回受賞するなど新鋭の作曲家として知られ、10月末に倉渕中学校へ打合わせにきた音楽隊のコンサートマスターも「はじめ楽譜を受け取って、え？あの福田洋介作曲！と驚きました」と語っていました。当日は福田氏も参列し、演奏の最後に作曲者として紹介されて会場の拍手を受けました。氏もこうした正式演奏になることは予想外だったらしく「こういう展開になるとは思わなかった」と嬉しそうに語っていました。

アメリカで発行された小栗上野介の本

◇ マイケル ワート 著『MEIJI RESTORATION LOSERS —



Memory and Tokugawa Supporters in Modern Japan—』（『維新の敗者たち—近代日本の回想と徳川幕府の支援者たち』仮題・本文すべて英語）

発行：ハーバード大学アジア研究センター 価格：不明

著者マイケル氏は倉渚中学校のALT（英語指導助手）として来日、小栗まっりのボランティアをするうち幕末の改革者小栗上野介を知り、帰国後大学院に入って研究を続け、東大留学生として1年間再来日。現在はア

メリカの大学准教授として日本の歴史・文化を教える。

まにわ

在日中は小栗上野介研究のほか、剣道の馬庭念流（高崎市吉井町）を学び、日本の古武道を身をもって体得している。

◇ 小栗上野介顕彰会機関誌「たつなみ」38号発行

購入ご希望の方は事務局（倉渚支所地域振興課）又は東善寺へ

【主な内容】 小栗まつり・記念講演要旨「近代日本は横須賀造船所から」山本詔一 吹奏楽曲「小栗のまなざし」 地元の古文書に伝わる「小栗騒動」戸塚祐子 国定教科書「修身」でひろまった咸臨丸「神話」村上泰賢 対馬事件の史跡を訪ねる 参考資料紹介：福地源一郎「懐往事談」より 新刊復刊紹介「小栗上野介忠順と幕末維新一小栗日記を読む」川野辺明 安藤智重著「東の良斎西の拙斎」 復刊「小栗日記」 復刻「小栗上野介正伝」 / 「商社」という言葉/顕彰慰霊碑の旗竿修理と石柱の建立/会員募集 など

来年2014の小栗まつりは 5月25日（日）

講演：童門冬二氏 決定！

墓前祭、記念演奏や賑やかな昼市など楽しいお祭です

◇ 『歴史街道』 11月号に

村上泰賢「幕臣・小栗上野介の〈維新〉」 を掲載



「小栗上野介は精忠の徳川武士だったヨ」と勝海舟が語ったので、のちに「小栗上野介は徳川幕府しか眼中にない徳川絶対主義者」というレッテルが貼られました。しかし小栗は「幕府の運命が終わっても、日本は続く。そのために造る」と日本の将来を見据え、多くの反対を押し切って横須賀造船所建設を進め、日本の産業革命の地となりました。そうした小栗上野介の生涯を6ページにわたって展開し

すぎはらちうね

ています。 また、トップ記事の「杉原千畝…」は、ナチスドイツの圧迫を恐れアメリカ、オーストラリア、上海などへののがれる6,000人ものユダヤ人に日本通過ビザを発行して救った杉原千畝と、それを支援した人のいたことを紹介。長く保管するに値する貴重な雑誌です。〈東善寺に在庫数冊あり 600円〉

◇ 蜷川新著『維新前後の政争と小栗上野介の死』と『同 続』二冊を合本で復刻

山口県のマツノ書店から 2冊合本で1冊になって予約価格10,000円 で復刻発売されました。（予約は締め切りました）

小栗道子夫人の妹はつ子を母とする蜷川新は、幕末明治の政争を背景とする明治新政府の汚点とも言うべき小栗主従殺害の理不尽を本書で鋭く指摘し、今では所在が不明な貴重な古文書を駆使して小栗公の業績と悲惨な末路を確認することに力を注いだ。

薩長政府の歴史観を徹底的に追求する内容に「こんな怖い本はうちでは発行できません」と渋る出版社を説得し、昭和3年に本書の刊行にこぎつけるとたちまち売り切れ、わずか2週間に4版を重ね、2年後に『続』までも出版するベストセラーとなった本。

【この復刻本のパンフレットで推薦文を村上泰賢が書きました】

官軍意識との戦い 東善寺住職 村上 泰賢

官軍という言葉がある。「官」の反対語は「民」であるのに、どうしたことか「官軍」の反対語が「民軍」とならず「賊軍」となる。世の中はそれほど単純なものではあるまい。こうなると「官軍」はよろしくない決めつけ言葉となるから、私は「官軍」という言葉を使わないようにしている。

小栗上野介は幕府解散で勘定奉行はじめ陸軍奉行などの兼職も一切解かれたので、幕府から帰農隠棲の許可を得て家族と共に知行地の上州権田村に移り……………」

（つづきはHP東善寺→「官軍意識との戦い」をご覧ください）

<http://tozenzi.cside.com/kangun.html>

◇ 幕末の歴史・小栗上野介ファンの方へ

会員になって下さい——— 東善寺 たつなみ会



倉渚町の小栗上野介顕彰会では機関誌『たつなみ』を発行(年1回)していますが、倉渚地区の人口減で顕彰会員が減っていますので、東善寺の「たつなみ会」会員の増加を期待します。会員には、「小栗上野介情報」や「東善寺だより」など、東善寺発行の小栗上野介・幕末関連の最新情報とともに、『たつなみ』誌を小栗上野介顕彰会から購入してお送りします。機関誌代が顕彰会の活動資金の一部となっています。 □たつなみ会会費 年1300円

□お申し込みは：東善寺へメールまたは電話、ハガキで

□ご送金は：郵便振替「東京00120-1-406206東善寺」へ